

## 平成29年度 前期授業評価の結果について

平成29年11月8日

宮城県志津川高等学校 教務部

本校では、前期と後期の年2回、授業をよりよく改善していくために、教員の授業について下記の①～⑭項目に関し生徒による授業評価を行っております。

今年度の前期授業評価について、結果・分析がまとまりましたので報告いたします。

### 1 アンケートの実施結果（教科別）

実施日 平成29年9月6日～25日

\* 各項目について

【そう思う＝4 ややそう思う＝3 あまりそう思わない＝2 そう思わない＝1】と点数化し、

それを平均したものが以下に示される数値です。その際、平均値は2.5になります。

『あなた自身に関する質問事項』	国語	社会	数学	理科	英語	保体	家庭	芸術	情報	商業	平均	昨年度（後期） の数値
①先生の話を理解しようと努めている。	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.7	3.6	3.5	3.3	3.5	3.5	3.5
②分からないことは、誰か（先生や友達）に質問するようにしている。	3.3	3.3	3.4	3.3	3.2	3.3	3.3	3.2	3.3	3.2	3.3	3.3
③予習をして授業に臨んでいる。*体育、音楽、美術については回答せず、保体は保健のみの数値。	2.5	2.5	2.5	2.4	2.7	2.7	2.6	-	2.0	2.7	2.5	2.5
④復習をして授業に臨んでいる。*体育、音楽、美術については回答せず、保体は保健のみの数値。	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.8	2.6	-	2.1	2.8	2.6	2.6
⑤提出物の提出期限を守っている。	3.5	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.3	3.3	3.5	3.5

『先生や授業に関する質問事項』	国語	社会	数学	理科	英語	保体	家庭	芸術	情報	商業	平均	昨年度（後期） の数値
⑥先生は十分な準備をしている。	3.6	3.7	3.6	3.7	3.3	3.7	3.6	3.5	3.3	3.6	3.6	3.5
⑦授業では大切なポイントが示されている。*例えば、授業の始めに、その授業での到達目標が示されている。	3.5	3.6	3.6	3.6	3.2	3.6	3.6	3.3	3.2	3.5	3.5	3.4
⑧授業の進む速さは適切である。	3.4	3.5	3.4	3.5	3.2	3.6	3.5	3.5	3.1	3.5	3.4	3.4
⑨先生の指示がよくわかる。	3.4	3.5	3.4	3.5	3.1	3.6	3.5	3.4	3.0	3.5	3.4	3.3
⑩板書が見やすい。*体育については回答せず、保体は保健のみの数値。	3.5	3.5	3.5	3.4	3.1	3.5	3.5	3.4	3.1	3.5	3.4	3.3
⑪先生は生徒の反応を大事にしている。	3.5	3.5	3.5	3.5	3.2	3.6	3.5	3.5	3.1	3.5	3.5	3.4
⑫使用している教科書や副教材は学習に役立っている。	3.5	3.6	3.5	3.4	3.3	3.6	3.5	3.2	3.3	3.5	3.4	3.4
⑬定期考査（または実技試験）の内容は、授業に沿ったものである。	3.6	3.6	3.6	3.6	3.4	3.6	3.5	3.4	3.3	3.6	3.5	3.5
⑭授業を通して得たものは多い。	3.3	3.4	3.4	3.4	3.1	3.6	3.5	3.3	3.2	3.5	3.4	3.3

⑮授業をよりよくするためにどうしたらよいか、意見や要望があったら書きなさい。

- ・もっとわかりやすく説明して欲しい。（国語など）
- ・発言、アウトプットが少ないので、機会を増やしてほしい。（理科）
- ・片付けを含めて5分前に授業を終わらせてもらいたい。（体育）

## 2 アンケートの結果分析

【全体分析】

昨年度後期の授業評価（1・2年）と比較した結果、全体の平均値に大きな変化は見られなかったが、『先生や授業に関する質問事項』の項目で若干上昇が見られた。

特に上昇が見られた科目は、社会、理科、保体である。全体でも『先生や授業に関する質問事項』の⑦、⑨が上昇していることから、昨年度中高一貫部から呼びかけのあった「本時の目標の提示をする」という取組の成果が少しずつ現れていると考える。

『あなた自身に関する質問事項』については、昨年度後期の授業評価と同じ数値であったが、各教科からは項目③、④の予習・復習が不十分である、身に付いていないという意見が多くあった。生徒が予習・復習に取り組みやすいよう、課題の出し方を工夫するとともに、予習・復習した内容が授業での主体的な学習に繋がるよう、これからも改善をしていく必要がある。

【教科ごと】（項目1. データの分析、項目2. 後期の授業に向けての対策）

国語	1	『あなた自身に関する質問事項』では、全ての項目において昨年度よりも低い値となった。また、『先生方や授業に関する質問事項』でも、⑥以外の項目において昨年度よりも低い値となった。
	2	週末課題などの課題の実施を通して、生徒が予習・復習の習慣を身に付けられるようにする。また、生徒が学習した内容を十分に理解できるような授業展開を工夫していく。
社会	1	全体的な数値は昨年度とほぼ変わらず推移している。分からないままにしている生徒や、予習・復習が不十分な生徒が依然として多い。
	2	生徒の主体的な学習を導くような指導法を取り入れるなど、生徒が興味・関心を持って学習できる授業を実践する。
数学	1	ほとんど昨年度と同様の数値である。前回予習・復習の意識に改善が見られたが、今回は、その部分でもまた元に戻ってしまった。
	2	生徒自らが主体的に教科の勉強を進められるようになるまで、今後とも予習・復習に取り組みやすい工夫（プリント、指示等）を実践していく。
理科	1	全体的に平均値に近い値となっている。昨年度低かった⑨の項目では、今年度は平均値程度になっており改善されたと考えられる。
	2	生物基礎を中心に、例年以上に実験を行っているので、生徒の興味関心を引きつけられている。その他の科目においても、自然の事象を取り上げ、広く興味を持たせ、自ら考えさせる支援を行っていく。
英語	1	③、④の数値から予習・復習をしっかり行って授業に臨む生徒が少ないことがうかがえる。
	2	学習事項を確認させながら、生徒の理解度に合わせて教材・教具を工夫していき、生徒の理解の定着に繋げていくようにする。
保体	1	昨年より数値を上げたのは①、⑨、⑫の項目であった。実技・座学とも意欲的に取り組む生徒が多い事がわかる。⑨、⑫の数値が上がった理由は指導側が授業のねらいや運動課題について掲示、映像、実演等の工夫を行ったためであると考えられる。
	2	引き続き指導内容及び提示方法の工夫を行いながら、自己の健康課題の克服とともに、体力をより高めるための意欲向上を図り、さらに卒業後も運動に親しみ運動を継続させていくための必要性について理解させたい。
家庭	1	自学自習に関する項目の評価が低く、授業前の準備が十分でないことが考えられる。
	2	家庭基礎は学習ノートを導入したので、予習をしてから授業に臨ませる形を定着させたい。フードや発達と保育でも、予習・復習に取り組みさせるきっかけを与えていきたい。また、授業展開に変化を持たせ、興味・関心を高める工夫を続けていきたい。
芸術	1	授業はおおむね落ち着いて受けているが、やや受け身であり、興味のないものについてはあまり関心を示さない。姿勢として自発的な学習活動がなされるよう促す。
	2	教科書や教材の使用方法を改善し学習効果を高めるとともに、価値のあるものを価値のあるものとして認知させ、生涯に渡って芸術を愛好する精神を養いたい。
情報	1	おおむね平均値と同じであるが、教科上の特性（パソコンを使用する）のため予習・復習などの家庭学習がしづらい部分が数字に表れている。
	2	「生徒間で教え合い、共に学んでいく」という教科特有のスタイルを、今後も大事にしていきたい。
商業	1	多くの項目で、平均値より低いか又は同じ数値になっている。他教科同様、家庭学習への取組が不足している。
	2	検定科目などは、特に「復習」が力を伸ばす鍵となるため、週末課題や長期休業時の検定対象科目の課題を課す機会を増やし、「復習」の習慣付けをしていきたい。